

は、必要に応じて医療機関を紹介すると共に、薬物依存についても、必要に応じて、医療機関に依存者を結びつけるというアウトリーチ的プログラムとして実施している。今年度は6グループの協力を得て、研究を実施した。

D. 各研究結果

研究1 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査（病院群調査）

初回対象患者125人（本調査経験者を含めると169人）を調べた。

対象患者をICD-10分類に従って分類し、各カテゴリー毎に人口統計学的属性・血清検査結果、身体所見を示したものが表1である。

性別では、ICD-10分類に関わらず、これまで同様に男性が圧倒的に多く、男:女は約7.4:2.6であった。

年齢はICD-10分類で、「多剤」は20～40歳代、「鎮静睡眠薬」は40歳、「覚せい剤」は30～40歳代に多く、これまで30歳代が多かった「揮発性溶剤」（有機溶剤）は「人気」の減少とともに高齢化が進み、40歳代が多かった。また、その「人気」のなさを反映して、対象者数も激減していた。

「鎮静睡眠薬」では例年、男性より女性の割合が高いが、昨年及び本年は男性の方が多かった。

ICD-10分類上の「鎮静睡眠薬」を除けば、独身者が多い一方で、離婚歴のある者の割合が一般人口での割合より高いのも従来通りであった。

2010年の本調査では、HIV感染者は認められなかった。

表1に一連の本調査により特定されたHIV抗体陽性者のまとめを掲載した。

表1 これまでのHIV陽性ケース

No.	年	年齢	性別	診断	感染経路
1	2001	30	男	覚せい剤依存症 (IDU経験なし)	タイにてCSWから
2	2002	27	男	多剤依存症	MSM間での性行為
3	2002	31	女	覚せい剤依存症	IDUsである性的伴侶より
4	2004	33	女	覚せい剤依存症	CSWの経験あり
5	2008	46	男	覚せい剤精神病 (HIV感染後始めた)	MSM間での性行為
6	2008	39	男	覚せい剤依存症 (IDU経験なし)	MSM間での性行為

初めてHIV感染者を認めたのは、2001年調査である（累積で1人/1868人）。そのケースは覚せい剤依存の30歳男性であったが、注射による薬物乱用歴はなく、タイでのCSWとの性接触による感染と考えられるケースであった。しかし、2002年調査では、注射による薬物使用者 (IDUs) である性的伴侶から感染したと考えられる31歳の覚せい剤依存者 (女性) 1名とMSM間での性行為により感染したと考えられる27歳の多剤依存者 (男性) 1名が特定された。2004年調査では、覚せい剤依存の既往とCSWの経験のある33歳女性のエイズ患者1名が特定された。2008年調査では、HIV感染後に注射での覚せい剤乱用を始めて幻覚妄想状態になったゲイの男性と5Meo-DIPT、ラッシュと覚せい剤（「あぶり」のみ）の乱用があるゲイの男性、計2名のHIV感染が確認された。

以上のように、薬物乱用・依存者のHIV感染は、性行為による感染の可能性と重複しており、その両面からHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。

HCV感染については、これまで同様、覚せい剤関連患者におけるHCV抗体陽性率が高く、44.6% (2009年では33.6%) であった。

身体所見では、覚せい剤・多剤関連患者における「入れ墨あり」の率が高く、これらの群での社会的偏りを示唆していた。

また、「根性焼き」とは、有機溶剤乱用時 (ICD-10では揮発性溶剤F18) に、タバコの火を自らの手の甲に押しつけることによって出来る火傷痕であるが、その存在は有機溶剤乱用の既往を推測させるものであり、「揮発性溶剤」患者のみならず、覚せい剤関連患者や多剤患者にも認められ、有機溶剤の乱用が覚せい剤等の乱用へとつながり易いという経験則を裏打ちしていることが多いが、今回の調査では、揮発性溶剤関連患者以外での「根性焼き」の頻度は低かった。

覚せい剤関連患者における肝炎抗体 (抗原) 陽性率の推移を図2に示した。1996年以降、C型肝炎抗体陽性率は確実に減少傾向にあるが、2008年以降は、増加傾向が伺われ、今後が危惧される。

表2は、注射行動・性行動等のHIV感染に関する

る危険行動調査の結果である。

わが国では、依存性薬物の静脈注射とは、事実上、覚せい剤の静脈注射を意味している。表2に示すように、覚せい剤関連患者の生涯注射経験率は77.8%（2009年で80.0%）と高く、覚せい剤関連患者の64%（2008年で60%）の者に、シリンジ／針の生涯共用経験があった。

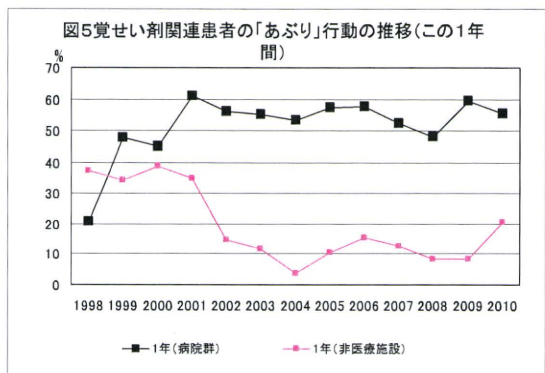
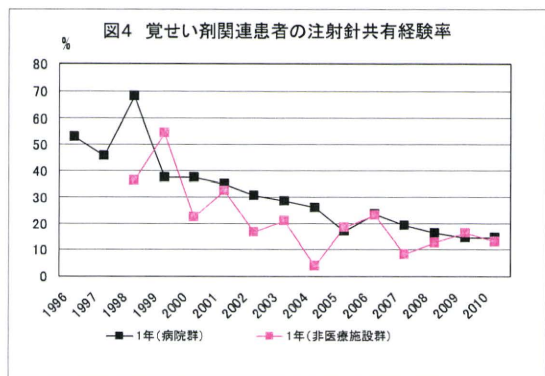
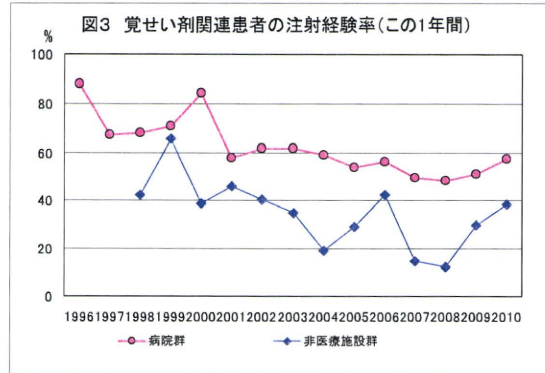
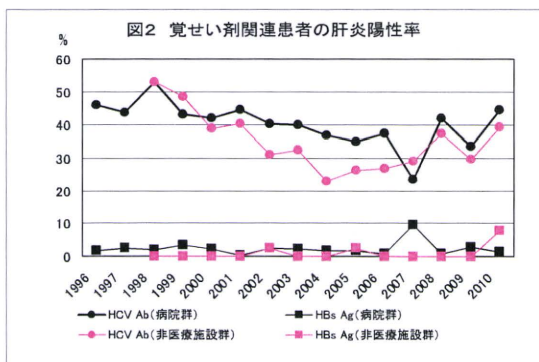
最近1年間に限れば、注射経験率は下がるが、それでも覚せい剤関連患者の58%（2009年で約51%）に最近1年間での注射既往があり、約15%（2009年で約14%）の者にシリンジ／針の共用経験もあった。

図3は覚せい剤関連患者の注射行動の推移を示している。注射の1年経験率は経年的に緩やかな低下傾向であったが、2009年以降は上昇傾向が伺われ、今後の動向が気になるところである。ただし、1996年以降の注射経験率（1年）低下の背景には「あぶり」の普及とその定着（図5）が影響していると推定される。

図4は注射針の共用経験率の推移を示している。注射針の共用経験率は経年的に確実に減少しており、注射経験率（図3）のような2009年以降の増加傾向も認められない。その背景には、「あぶり」の普及・定着（図5）と、使い捨て用のインシュリン用の注射器の普及が想定される。

第2次覚せい剤乱用期（1970年～1994年）には、覚せい剤の乱用と言え、静脈注射一辺倒であったが、その後の第3次乱用期（1995年～現在）では、覚せい剤を火であぶって吸う「あぶり」が若い年代の覚せい剤乱用者間で広がった。図5は「あぶり」の経験率を示しているが、2001年以降、「あぶり」が定着した感がある。

また、この1年間で、注射と「あぶり」のど



ちらが多かったかを調べたが（表2）、2001年調査で、初めて「あぶり」が注射を上回ったが、2002年調査～2004年調査では再び注射優位となっていた。2005年では全く同率であったが、2006年調査以降、再び「あぶり」優位となっている。「あぶり」はHIV感染とは直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションブルな感覚から、覚せい剤の乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の視点からは決して歓迎される形態とは言えない。しかも、その気軽さ、ファッションブルさから、性行動との結びつきの促進が憂慮され、看過できない問題である。

最近1年間での「風俗」での性交渉経験率は、対象データがないため、高い低いを言えないが

(表2)、利用の際のコンドームの使用は徹底されておらず、啓発が必要である。

「風俗」以外での不特定多数との性交渉(「行きずり」の性交渉)経験率も、最近1年間での「風俗」での性交渉経験率と同じような解釈ができる。

最近1年間での海外渡航者(表2)は、数の上では少ないが、渡航した者の渡航先での薬物使用率、性接触率は高く、注意を要する。

また、国内での外国人との性接触は「風俗」で多く、これもHIV感染の危険因子と考えられる。

表3は、ICD-10分類にかかわらず、注射の既往、入れ墨の有無による人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見を示したものである。

最近1年間で注射既往のある者の平均年齢は約41歳(2009年は約36歳)であり、これまでに注射既往のない者のそれは約35歳(2009年では37歳)で、以前には注射既往があるが、この1年間ではない者のそれは約42歳(2009年では約42歳)であった。この年齢の順位は、昨年の例外を除けば、従来通りであった。

また、HCV抗体陽性率は、注射による乱用経験のある二つの群で明らかに高く、HCV感染が注射針の共用に起因することを強く示唆している。

また、注射経験者では「入れ墨」保有率が高く、「指つめ」ありの率も高く、注射経験者の社会的属性の偏りを示唆している。

また、「入れ墨」は、皮膚を彫る際の針によってHCV、HIV感染等の感染危険行動になり得る。表3に示したように、「入れ墨」保有者でのHCV抗体陽性率は67%(2009年では45%)と高かった。

表4は、ICD-10分類に関わらず、調査対象を注射既往、入れ墨の有無から、注射行動、性行動についてみたものである。

従来、この1年間にも注射の既往がある群で、この1年間での「風俗」での性接触が3群中最も高かったが、今回の調査でも結果は同じであった。

以上より、覚せい剤関連患者では、注射行動という危険行動に加えて、入れ墨保有率も高く、複合的に危険性が増していると考えられる。

研究2 医療機関を受診していない薬物依存者調査

初回検査者73人(本調査経験者を含めると254人)を調査した。

表5は医療機関を受診していない薬物依存者のICD-10分類にもとづく、人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見を示している。

未婚者が多いと同時に離婚経験者も多いことも、病院群と同じであった。

また、覚せい剤関連患者でのHCV抗体陽性率は39.5%(2009年では29.7%)であり、病院群の44.6%(表1)よりは低いが、そもそも両群ともに高いことに変わりはない。また、2005年以降、上昇傾向にある(図2)。

覚せい剤関連患者についての両群の比較では、「入れ墨」のある率と「指つめ」のある率は、それぞれ病院群：非病院群=23:41(2009年では38:38)、8:13(2009年では8:8)であり、非病院群で高い傾向が伺われた。「根性焼き」のある率は非病院群で明らかに高かった

(4:28)が、「自傷痕」のある割合は、15:13とほとんど同じであった。

従来、非病院群は、病院群よりも若くして薬物乱用を初め、精神病理学的リスクも高い者が多い傾向にある。この傾向が前述の身体的特徴の違いとなって現れているようである。

図5に示したように、この群は病院群よりも早い時期から「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使用してきた者が多い傾向にあり、薬物依存症の「重症」群でもある。しかし、この群でのこの1年間での注射経験率(図3)は低い。これらは、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援グループの指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの表れであると考えられる。

E. HCV感染に関するハイリスク因子について

本調査研究では、調査の度にHCV感染率が高率である。そこで、病院群と非病院群の双方を併せて、HCV感染に関するハイリスク因子について検討した。

表9は、今回の検査を受ける際に、注射による薬物の使用はHIV感染・C型肝炎の主な感染経

路になっていることを知っていたかどうか関する初回検査者の結果である。注射によるHIV感染の危険を知らなかった者は両群で違いはなかった。C型肝炎については、IDU経験者の方で知っていた者が有意に多かった。本来、知識があれば、危険行動はとらないと考えがちであるが、逸脱の世界では、往々にして、経験者の方が知識を持っているということは起こり得ることである。

また、表10は「あぶり」を行った理由についての回答である。「注射は怖いから」「針が手に入らなかったから」で有意差が認められた。HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行った者が少ないことに留意する必要がある。

図6は、注射による薬物使用の経験の有無とHCV抗体陽性率との関係を示している。注射による薬物使用の経験がある者でのHCV抗体陽性率が明らかに高かった。

図7は、入れ墨の有無とHCV抗体陽性率との関係を示している。入れ墨のある者でのHCV抗体陽性率は明らかに高かった。

図8は、この1年間での風俗経験とHCV抗体陽性率との関係を示している。この1年間での風俗経験とHCV抗体陽性率との間には、相関が認められた。

図9は、年代とHCV抗体陽性率との関係を示している。年代が上がるほどHCV抗体陽性率が高くなることが明らかとなった。

そこで、HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無、風俗での性接触を独立変数として、判別分析を行ってみた。その結果、固有値が0.453、Wilksのラムダが0.688 ($p < 0.000$) であり、モデルとしては良好とはいえないが、正答率は75.7～75.6%で、正準判別関数係数では、注射の回数

表9 初回検査者におけるHIV/HCV感染と注射との関係を知らなかった者の割合

	HIVについて知らなかった者	C型肝炎について知らなかった者*
IDU非経験者	13.0% (3/23)	21.7% (5/23)
IDU経験者	12.5% (9/72)	5.7% (4/70)

* : $p < 0.05$

表10 初回検査者における「あぶり」の理由

	IDU非経験者	IDU経験者
好奇心	77.8% (7/9)	62.9% (22/35)
注射は怖いから*	66.7% (6/9)	17.1% (6/35)
気軽にできるから	55.6% (5/9)	25.7% (9/35)
回数を多くできるから	11.1% (1/9)	8.6% (3/35)
依存になりにくいと思ったから	44.4% (4/9)	17.1% (6/35)
針が手に入らなかったから*	0% (0/9)	34.3% (12/35)
HIV感染が気になったから	0% (0/9)	2.9% (1/35)
C型肝炎感染が気になったから	0% (0/9)	8.6% (3/35)
その他	11.1% (1/9)	14.3% (5/35)

* : $p < 0.05$

図6 注射経験の有無とHCV抗体陽性率との関係

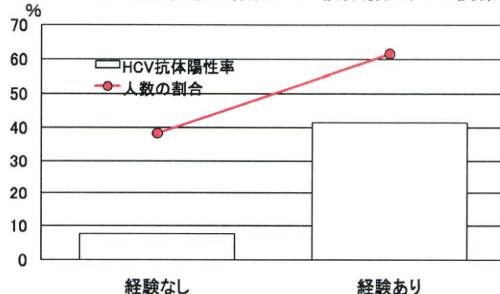
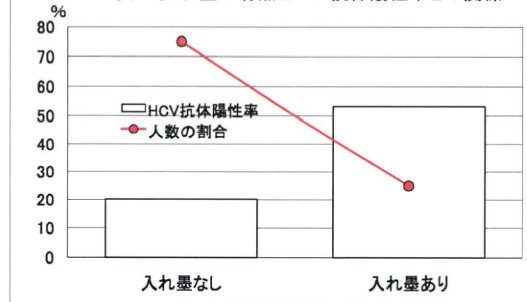
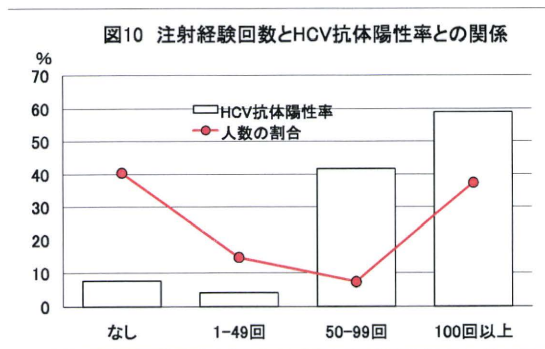
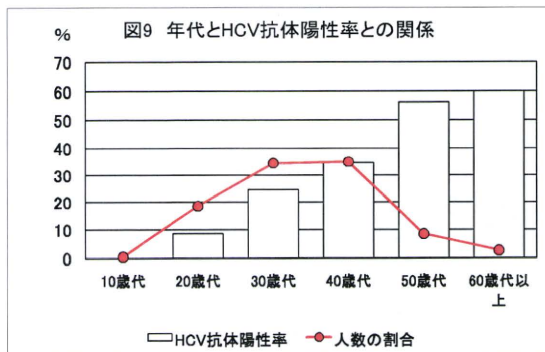
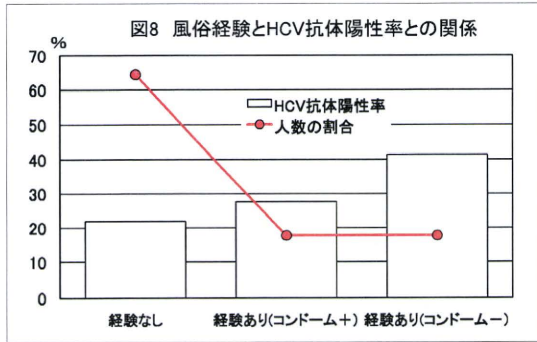


図7 入れ墨の有無とHCV抗体陽性率との関係



: 0.699、年齢: 0.366、風俗での性接触: 0.276、入れ墨: 0.269であり、この順に判別に寄与する程度が大きいことが判明した。

一般人口における年齢とHCV抗体陽性率と間には、高齢になるほどHCV抗体陽性率が高まるという、年齢による累積効果とも言うべき現象が存在するようであるが、図9に見る本調査の対象群における年代とHIV抗体陽性率との関係は、その現象の範囲を超える上昇ぶりである。



これは、注射針の共有が同世代の薬物乱用・依存者間で繰り返されてきた結果ではないかと考えられる。

ちなみに、図10は、これまでの注射による薬物使用回数とHCV抗体陽性率との関係を示している。これまでの注射回数というものは信頼性に欠ける面があり、確かなことは、これまでの注射による薬物乱用の経験が無いという場合と、100回以上と言って良いほど多数回の注射経験があるという2点であろうと推定できる。従って、図10の意味するところは、注射回数が増えれば増えるほど、HCV抗体陽性率は高まると解釈して問題はないであろう。

F. 結論

① 薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。

② 研究は「1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」(病院群)、「2. 医療機関を受診していない薬物依存者調査」(非病院群)の2部門調査から成っている。各研究においては、対象者の同意の下で、調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。いずれの調査も、2010年1月1日～2010年12月31日に入院、入所(一部通所)した者を対象とした。

③ 病院群は4施設の初回対象患者125人(本調査経験者を含めると169人)を調べた。この4病院で、わが国の覚せい剤関連精神疾患患者全体の約13%(2006年6月30日現在の全国精神病院の病名別在院患者数を元にして)は捕捉できると推定している。非病院群は6施設の初回検査者73人(検査経験者を含めると254人)を調査した。

④ 両群でHIV抗体陽性者は認められなかった。

⑤ 病院群での覚せい剤関連患者では、HCV抗体陽性率が44.6%と高い。このHCV抗体陽性率は経年的には確実に減少傾向を示していたが、2008年以降は増加傾向にあり、今後の動向が危惧される。

⑥ ハイリスク行動としては、78%の者に、これまでに注射による薬物使用の既往(以下、注射の既往)があり、この1年間でも58%の者に注射の既往があった。また、約64%の者にシリンジ及び針の生涯共用経験があり、最近1年間に限っても、約15%の者にシリンジ及び針の共用経験があった。経年的には注射の1年経験率、注射針の1年共用経験率は低下していたが、その背景には「あぶり」の普及があると推測される。しかし、この1年間での注射経験率は2009年以降、増加気味であり、今後の動向が危惧される。

⑦ 病院群における「あぶり」の経験率は2001年以降、定着したようである。「あぶり」を行った理由としては、「好奇心」「注射は怖いから」「気軽にできるから」の割合が高く、HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行った者は少ないことが明らかになった。この「あぶり」は、HIV感染と直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションナブルな感覚から覚せい剤乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の観点からは決して歓迎される形態とは言えない。同時に、その気軽さ及びファッションナブルさから、性行動と結びつきやすい傾向が伺え、今後、薬物使用と性行動との関係に関する対応が必要である。

⑧ 非病院群の覚せい剤関連患者でのHCV抗体陽性率は約40%であり、病院群の45%よりは低かった。ただし、長期的には現状傾向にあった覚せい剤関連患者での、この1年間での注射経験率、HCV抗体陽性率は、それぞれ2009年以降、2005年以降、上昇傾向にあり、今後の動向が危惧される。

⑨ 非病院群は病院群よりも早い時期から「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使用してきた者が多い傾向にあり、薬物依存症の「重症」群でもある。しかし、この群での、この1年間での注射経験率は病院群でのそれよりも低い。それは、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援グループの指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの表れであると考えられる。

⑩ 病院群、非病院群に関係なく、HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無、風俗での性接触を独立変数として、判別分析を行ってみた。その結果、固有値が0.453、Wilksのラムダが0.688

($p < 0.000$) であり、モデルとしては良好とはいえないが、正答率は75.7~75.6%で、正準判別関数係数では、注射の回数：0.699、年齢：0.366、風俗での性接触：0.276、入れ墨：0.269であり、この順に判別に寄与する程度が大きいことが判明した。

⑪ 薬物乱用・依存者のHIV感染は、注射行為のみならず、性行為による感染の可能性と重複していることが多そうで、今後も、その両面か

らHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。

【注意事項】

・病院群でも、非病院群でも、2008年以降、HCV抗体陽性率が増加傾向にある。

・両群共に、1年間での注射針の共有経験率は減少しているが、両群共に、この1年間での注射経験率が2009年以降、増加気味である。

G. 発表論文

和田 清：薬物依存とは—日本の現状と求められる治療—。シンポジウム2 薬物依存とHIV。第24回日本エイズ学会学術集会。グランドプリンスホテル高輪。2010. 11. 24.

H. 学会発表

なし

I. 知的所有権の取得状況

なし

表1【医療機関を受診した薬物依存者】の属性・血清検査・身体所見(%)

	F11	F12	F13	F15	F18	F19	全体
	アヘン類	大麻	鎮静睡眠薬	覚せい剤	揮発性溶剤	多剤	
	1[0.8]	1[0.8]	15[12.0]	81[64.8]	8[6.4]	19[15.2]	125[100]
性別							
男	1(100)	1(100)	11(73.3)	55(67.9)	8(100)	16(84.2)	92(73.6)
女	1(0)	0(0)	4(26.7)	26(32.1)	0(0)	3(15.8)	33(26.4)
年齢							
10歳代						1(5.3)	1(0.8)
20歳代			3(20.0)	12(14.8)	2(25.0)	7(36.8)	24(19.2)
30歳代		1(100)	4(26.7)	30(37.0)	1(12.5)	5(26.3)	41(32.8)
40歳代	1(100)		6(40.0)	29(35.8)	4(50.0)	5(26.3)	45(36.0)
50歳代			2(13.3)	5(6.2)	1(12.5)	1(5.3)	9(7.2)
60歳代				5(6.2)			5(4.0)
平均年齢±SD	42	39	37.1 ±9.8	39.6 ±9.7	39.3 ±9.7	32.5 ±8.8	38.2 ±9.7
現在の配偶歴(%)			n=14	n=71	n=3	n=17	n=107
未婚			28.6	62.0	66.7	76.5	58.9
既婚	100		57.1	14.1	0	11.8	19.6
離婚		100	14.3	18.3	33.3	11.8	17.8
死別			0	5.6	0	0	3.7
離婚歴あり	0	100	14.3	33.8	33.3	11.8	28
血清検査(%)							
HIV抗体陽性	0	0	0	0(0/74)	0	0(0/18)	0(0/117)
HCV抗体陽性	0	0	13.3	44.6(33/74)	0	16.7(3/18)	32.5(38/117)
HBs抗原陽性	0	0	6.7	1.4(1/74)	0	0(0/18)	1.7(2/117)
HBs抗体陽性	0	0	7.1(1/14)	0(0/49)	0(0/3)	0(0/15)	1.2(0/83)
HBc抗体陽性	0	0	0(0/14)	0(0/49)	0(0/3)	0(0/15)	0(0/83)
TPHA陽性率	0	0	0	6.8(5/74)	0	5.6(1/18)	5.1(6/117)
性病既往(自己申告)(%)							
モジラミ	100.0	0	0(0/14)	23.3(17/73)	0(0/3)	11.8(2/17)	18.3(20/109)
淋病	0.0	0	0(0/14)	20.8(15/72)	0(0/3)	17.6(3/17)	16.7(18/108)
クラミジア	0.0	0	0(0/14)	11.0(8/73)	0(0/3)	0(0/17)	7.3(8/109)
梅毒	0.0	0	0(0/14)	9.6(7/73)	0(0/3)	11.8(2/17)	8.3(9/109)
身体所見(%)							
輸血の既往あり	0	0	0(0/14)	0(0/65)	0(0/3)	0(0/17)	0(0/101)
歯の著明不良あり	0	0	0(0/14)	21.9(16/73)	100(3/3)	5.9(1/17)	18.3(20/109)
注射痕あり	0	0	0(0/14)	35.6(26/73)	0(0/3)	23.4(4/17)	27.5(30/109)
入れ墨あり	100	0	0(0/14)	23.3(17/73)	33.3(1/3)	29.4(5/17)	22.0(24/109)
指つめあり	0	0	0(0/14)	8.2(6/73)	0(0/3)	5.9(1/17)	6.4(7/109)
根性焼きあり	0	0	7.1(1/14)	4.2(3/72)	66.7(2/3)	5.9(1/17)	6.5(7/108)
自傷痕あり	0	0	7.1(1/14)	15.1(11/73)	66.7(2/3)	11.8(2/17)	14.7(16/109)

表2【医療機関を受診した薬物依存者】の注射行動・性行動(%)

	F11	F12	F13	F15	F18	F19	全体
	アヘン類	大麻	鎮静睡眠薬	覚せい剤	揮発性溶剤	多剤	
	1[0.8]	1[0.8]	15[12.0]	81[64.8]	8[6.4]	19[15.2]	125[100]
これまでに(%)							
注射経験あり	0	0.0	0(0/14)	77.8(56/72)	0(0/3)	50.0(8/16)	59.8(64/107)
シリンジ共用経験+	0	0.0	0(0/14)	64.2(43/67)	0(0/3)	31.3(5/16)	47.1(48/102)
針の共用経験+	0	0.0	0(0/14)	64.2(43/67)	0(0/3)	31.3(5/16)	47.1(48/102)
注射回数							
なし	100	100.0	100(14/14)	25.4(16/63)	100(3/3)	47.1(8/17)	43.4(43/99)
1~49回				20.6(13/63)		11.8(2/17)	15.2(15/99)
50~99回				9.5(6/63)		11.8(2/17)	8.1(8/99)
100回以上				44.4(28/63)		29.4(5/17)	33.3(33/99)
最近1年間で(%)							
注射経験あり	0	0.0	0(0/14)	57.7(41/71)	0(0/3)	35.3(6/17)	33.6(36/107)
シリンジ共用経験+	0	0.0	0(0/14)	14.5(9/62)	0(0/3)	17.6(3/17)	12.2(12/98)
針の共用経験+	0	0.0	0(0/14)	14.5(9/62)	0(0/3)	17.6(3/17)	12.2(12/98)
注射回数							
なし	100	100	100(14/14)	59.1(39/66)	100(3/3)	64.7(11/17)	67.6(69/102)
1~49回	0	0	0(0/14)	36.4(24/66)	0(0/3)	35.3(6/17)	39.4(30/102)
50~99回	0	0	0(0/14)	3.0(2/66)	0(0/3)	0(0/17)	2.0(2/102)
100回以上	0	0	0(0/14)	1.5(1/66)	0(0/3)	0(0/7)	1.0(1/102)
これまでに「あぶり」の経験あり(%)							
	0	0.0	0(0/14)	70.8(51/72)	0(0/3)	58.8(10/17)	56.5(61/108)
この1年間で「あぶり」の経験あり(%)							
	0	0.0	0(0/14)	55.7(39/70)	0(0/3)	52.9(9/17)	45.3(48/106)
この1年間ではどちらが多いか?(%)							
注射	0	0.0	0(0/14)	37.3(25/67)	0(0/3)	17.6(3/17)	27.2(28/103)
「あぶり」	0	0.0	0(0/14)	41.8(28/67)	0(0/3)	35.3(6/17)	33.0(34/103)
同程度	0	0.0	0(0/14)	1.5(1/67)	0(0/3)	11.8(2/17)	2.9(3/103)
どちらもなし	100.0	100(1/1)	100(14/14)	19.4(13/67)	100(2/2)	35.3(6/17)	36.9(38/103)
「風俗」での性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	0	0.0	78.6(11/14)	51.6(32/62)	66.7(2/3)	68.8(11/16)	57.7(56/97)
あり(常にコンドーム+)	100	100	14.3(2/14)	32.3(20/62)	33.3(1/3)	18.8(3/16)	28.9(28/97)
あり(コンドーム-のことあり)	0	0.0	7.1(1/14)	16.1(10/62)	0(0/3)	12.5(2/16)	13.4(13/97)
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	100	100	92.9(13/14)	70.1(47/67)	100(3/3)	75.0(12/16)	75.5(77/102)
あり(常にコンドーム+)	0	0	7.1(1/14)	14.9(10/67)	0(0/3)	12.5(2/16)	12.7(13/102)
あり(コンドーム-のことあり)	0	0	0(0/14)	14.9(10/67)	0(0/3)	12.5(2/16)	11.8(12/102)
国内で外国人との性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	0	100	95.9(13/14)	83.6(56/67)	100(3/3)	88.2(15/17)	85.4(88/103)
あり(常にコンドーム+)	100	0	0(0/14)	7.5(5/67)	0(0/3)	0(0/17)	5.8(6/103)
あり(コンドーム-のことあり)	0	0	7.1(1/14)	9.0(6/67)	0(0/3)	11.8(2/17)	8.7(9/103)
性接触ありの場合の相手							
「風俗」で	100	-	100	100	-	100	100
「風俗」以外で	0	-	0	0	-	0	0
両方で	0	-	0	0	-	0	0
海外渡航歴のある者(最近1年間)(%)							
	0	0	0(0/14)	6.0(4/67)	0(0/3)	0(0/17)	3.9(4/103)
上記のうち							0
渡航先での薬物使用	-	-	-	75.0(3/4)	-	-	75.0(3/4)
渡航先での性接触	-	-	-	100(4/4)	-	-	100(4/4)

表3 【医療機関を受診した薬物依存者】の注射経験、入れ墨と属性・血清検査・身体所見

	これまでに 注射経験なし	これまでに注射経験あり		入れ墨	
		1年間にはなし	1年間にもあり	なし	あり
	43[40.6]	28[26.4]	35[33.0]	85[78.0]	24[22.0]
性別					
男	28(65.1)	22(78.6)	24(68.6)	54(63.5)	22(91.7)
女	15(34.9)	6(21.4)	11(31.4)	31(36.5)	2(8.3)
年齢					
10歳代	1[100]	0	0	1[100]	0[0]
20歳代	10[62.5]	3[18.8]	3[18.8]	16[88.9]	2[11.1]
30歳代	16[43.2]	12[32.4]	9[24.3]	32[86.5]	5[13.5]
40歳代	14[34.1]	7[17.1]	20[48.8]	31[75.6]	10[24.4]
50歳代	2[28.6]	3[42.9]	2[28.6]	4[50.0]	4[50.0]
60歳以上	0[0]	3[75.0]	1[25.0]	1[25.0]	3[75.0]
平均年齢±SD	34.7±8.1	41.6±11.0	40.8±8.6	36.8±8.4	44.2±11.5
現在の配偶歴			n=33		
未婚	60.5	60.7	51.5	61.2	50.0
既婚	27.9	14.3	15.2	20.0	18.2
離婚	11.6	14.3	30.3	17.6	18.2
死別	0.0	10.7	3	1.2	13.6
離婚歴あり	14.0	32.1	45.5	25.9	36.4
血清検査(%)					
HIV抗体陽性率	0	0(0/27)	0(0/29)	0(0/80)	0(0/21)
HCV抗体陽性率	9.3	44.4(12/27)	55.2(16/29)	23.8(19/80)	66.7(14/21)
HBs抗原陽性率	2.3	3.7(1/27)	0(0/29)	2.5(2/80)	0(0/21)
HBs抗体陽性率	2.3	0(0/17)	0(0/22)	1.5(1/67)	0(0/16)
HBc抗体陽性率	0	0(0/17)	0(0/22)	0(0/67)	0(0/16)
TPHA陽性率	4.7	3.7(1/27)	3.4(1/269)	5.0(4/80)	0(0/21)
性病既往(自己申告)(%)					
モジラミ	14.0	10.7	28.6	14.1	33.3
淋病	7.0	14.8(4/27)	28.6	11.8	33.3
クラミジア	2.3	3.6	17.1	2.9	12.5
梅毒	2.3	14.3	8.6	7.1	12.5
身体所見(%)					
輸血の既往あり	0	0(0/26)	0(0/31)	0(0/80)	0(0/22)
歯の著明不良あり	9.3	28.6	20.0	14.3(12/84)	29.2
注射痕あり	0	42.9	45.7	21.4(18/84)	45.8
入れ墨あり	11.6	32.1	25.7		100.0
指つめあり	0	10.7	8.6	0(0/84)	29.2
根性焼きあり	11.9	0	5.7	9.5(8/84)	0
自傷痕あり	16.3	17.9	11.4	16.7(14/84)	8.3

表4【医療機関を受診した薬物依存者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

	これまで			入れ墨	
	注射経験なし 43[40.6]	これまでにはなし 28[26.4]	これまでにもあり 35[33.0]	なし 85[78.0]	あり 24[22.0]
これまで (%)					
注射経験あり	0	100	100	54.8(46/84)	78.3(18/23)
シリンジ* 共用経験あり	0	80.0(20/25)	81.8(27/33)	40.0(32/80)	72.7(16/22)
針の共用経験あり	0	80.0(20/25)	81.8(27/33)	40.0(32/80)	72.7(16/22)
注射経験の注射回数					
なし	100	0	0(0/32)	48.7(38/78)	23.8(5/21)
1~49回	0	30.4(7/23)	25.0(8/32)	19.2(15/78)	0(0/21)
50~99回	0	21.7(5/23)	9.4(3/32)	10.3(8/78)	0(0/21)
100回以上	0	47.8(11/23)	65.6(21/32)	21.8(17/78)	76.2(16/21)
最近1年間で (%)					
注射経験あり	0	0	100	31.3(26/83)	41.7
シリンジ* 共用経験	0	0(0/26)	39.3(11/28)	9.1(7/77)	23.8(5/21)
針の共用経験	0	0(0/26)	39.3(11/28)	9.1(7/77)	23.8(5/21)
注射経験の注射回数					
なし	100	100(26/26)	0(0/32)	68.8(55/80)	63.6(14/22)
1~49回	0	0	90.6(29/32)	30.0(24/80)	27.3(6/22)
50~99回	0	0	6.3(2/32)	1.3(1/80)	4.5(1/22)
100回以上	0	0	3.1(1/32)	0(0/80)	4.5(1/22)
これまで「あぶり」の経験あり	44.2	57.1	37.6(23/34)	56.0(47/84)	58.3
この1年間で「あぶり」の経験あり (%)	44.2	32.1	59.4(19/32)	47.6(40/84)	36.4(8/22)
この1年間ではどちらが多いか?					
注射	0	0	68.8(22/32)	24.7(20/81)	36.4(8/22)
「あぶり」	44.2	36.0(9/25)	15.6(5/32)	38.3(31/81)	13.6(3/22)
同程度	0	0	9.4(3/32)	2.5(2/81)	4.5(1/22)
どちらもなし	55.8	64.0(16/25)	6.3(2/32)	34.6(28/81)	45.5(10/22)
「風俗」での性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	62.8	76.2(16/21)	36.7(11/30)	57.1(44/77)	60.0(12/20)
あり(常にコンドーム+)	25.6	14.3(3/21)	43.3(13/30)	31.2(24/77)	20.0(4/20)
あり(コンドーム-のことあり)	11.6	9.5(2/21)	20.0(6/30)	11.7(9/77)	20.0(4/20)
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	72.1	92.0(23/25)	65.6(21/32)	76.3(61/80)	72.7(16/22)
あり(常にコンドーム+)	20.9	4.0(1/25)	9.4(3/32)	13.8(11/80)	9.1(2/22)
あり(コンドーム-のことあり)	7.0	4.0(1/25)	25.0(8/32)	10.0(8/80)	18.2(4/22)
国内で外国人との性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	83.7	96.2(25/26)	78.1(25/32)	86.4(70/81)	81.8(18/22)
あり(常にコンドーム+)	7	3.8(1/26)	6.3(2/32)	6.2(5/81)	4.5(1/22)
あり(コンドーム-のことあり)	9.3	0(0/26)	15.6(5/32)	7.4(6/81)	13.6(3/22)
性接触ありの場合の相手					
「風俗」で	100(7/7)	100(1/1)	85.7(6/7)	91.9(10/11)	100(4/4)
「風俗」と「風俗」以外の	0(0/7)	0(0/1)	14.3(1/7)	9.1(1/11)	0(0/4)
外渡航歴のある者 (最近1年間)	7.0	0(0/26)	3.2(1/31)	3.7(3/81)	4.5(1/22)
上記のうち					
渡航先で薬物使用のあった者	66.7(2/3)		100(1/1)	66.7(2/3)	100(1/1)
渡航先で性交渉のあった者	100(3/3)		100(1/1)	100(3/3)	100(1/1)

表5【医療機関を受診していない薬物依存者】の属性・血清検査・身体所見(%)

		主診断 (ICD-10)						
		F10	F12	F13	F15	F18	F19	全体
		アルコール	大麻	鎮静睡眠剤	覚せい剤等	揮発性溶剤	多剤	
		8[11.0]	1[1.4]	4[5.5]	39[53.4]	4[5.5]	17[25.0]	73[100]
性別	男	8(100)	1(100)	4(100)	34(87.2)	4(100)	17(100)	68(93.2)
	女				5(12.8)			5(6.8)
年齢	20歳代	1(12.5)	1(100)	2(50.0)	6(15.4)	1(25.0)	3(17.6)	14(19.2)
	30歳代	2(25.0)		1(25.0)	16(41.0)	1(25.0)	7(41.2)	27(37.0)
	40歳代	1(12.5)		1(25.0)	14(35.9)	2(50.0)	6(35.3)	24(32.9)
	50歳代	4(50.0)			3(7.7)			7(9.6)
	60歳代	0(0)					1(5.9)	1(1.4)
	平均年齢±SD	43.3 ±10.9	24.0	33.5 ±10.4	39.1 ±8.0	36.5 ±11.3	38.1 ±10.4	38.6 ±9.3
現在の配偶歴(%)								
	未婚	50.0	100	75.0	57.9	100	64.7	62.5
	既婚				2.6		5.9	2.8
	離婚	37.5		25.0	39.5		29.4	33.3
	死別	12.5						1.4
	離婚歴あり	50.0	0	25.0	44.7	0	35.3	38.9
血清検査(%)		n=7			n=38		n=41	n=71
	HIV抗体陽性	0	0	0	0	0	0	0
	HCV抗体陽性率	0	0	0	39.5	0	5.9	22.5
	HBs抗原陽性率	0	0	0	7.9	0	5.9	5.6
	HBs抗体陽性率	14.3	0	0	7.9	0	5.9	7.0
	HBc抗体陽性率	14.3	0	0	18.4	0	0	11.3
	TPHA陽性率	0	0	0	7.9	0	0	4.2
性病既往(自己申告)(%)								
	毛ジラミ	12.5	0	0	20.5	25	17.6	17.8
	淋病	0	0	0	23.1	0	5.9	13.7
	クラミジア	12.5	0	0.0	7.7	0	0	5.5
	梅毒	0	0	0	7.7	0	0	4.1
身体所見(%)					n=38	n=3	n=16	n=70
	輸血の既往あり	50.0	0	25.0	23.7	0	18.8	24.3
	歯の著明不良あり	25.0	100	75.0	64.1	50.0	41.2	54.8
	注射痕あり	13	0	0	28.2	25.0	29.4	24.7
	入れ墨あり	25.0	0	0	41.0	25.0	17.6	30.1
	指つめあり	0	0	0	12.8	25	0	8.2
	根性焼きあり	25.0	0	0	28.2	75	41.2	31.5
	自傷痕あり	12.5	100	50.0	12.8	25.0	17.6	17.9

表6【医療機関を受診していない薬物依存者】の注射行動・性行動(%)

	ICD-10						全体
	F10	F12	F13	F15	F18	F19	
	アルコール	大麻	鎮静睡眠剤	覚せい剤等	揮発性溶剤	多剤	
	8[11.0]	1[1.4]	4[5.5]	39[53.4]	4[5.5]	17[25.0]	73[100]
これまでに(%)							
注射経験あり	50.0	0.0	25.0	84.6	75.0	35.3	31.5
シリンジ 共用経験+	50.0	0.0	25.0	69.2	25.0	56.3(9/16)	58.3(42/72)
針の共用経験+	50.0	0.0	25.0	66.7	25.0	53.3(8/15)	56.3(40/71)
注射回数			n=3	n=38		n=14	n=69
なし	50.0	100.0	75.0	15.8	75.0	50.0	34.8
1~49回	12.5	0.0	25.0	10.5	0.0	21.4	13.0
50~99回	12.5	0.0	0.0	5.3	25.0	0.0	5.8
100回以上	25.0	0.0	0.0	68.4	0.0	28.6	46.4
最近1年間で(%)						n=42	n=69
注射経験あり	0.0	0.0	25.0	38.5	0.0	17.6	26.0
シリンジ 共用経験+	0.0	0.0	25.0	12.8	0.0	11.8	11.0
針の共用経験+	0.0	0.0	25.0	12.8	0.0	11.8	11.0
注射回数						n=16	n=111
なし	100.0	100.0	75.0	61.5	100.0	87.5	75.0
1~49回	0.0	0.0	25.0	20.5	0.0	6.3	13.9
50~99回	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	4.2
100回以上	0.0	0.0	0.0	10.3	0.0	6.3	6.9
これまでに「あぶり」の経験あり(%)							
	12.5	0.0	50.0	74.4	25.0	52.9	57.5
この1年間で「あぶり」の経験あり(%)							
	0.0	0.0	25.0	20.5	0.0	5.9	13.7
この1年間でどちらが多いか?(%)						n=16	n=72
注射	0.0	0.0	0.0	35.9	0.0	12.5	22.2
「あぶり」	0.0	0.0	25.0	7.7	0.0	6.3	6.9
同程度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
どちらもなし	100.0	100.0	75.0	56.4	100.0	81.3	70.8
「風俗」での性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	75.0	100.0	75.0	71.8	50.0	70.6	71.2
あり(常にコンドーム+)	12.5	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	5.5
あり(コンドーム-のことあり)	12.5	0.0	25.0	20.5	50.0	29.4	23.3
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年)							
なし	100.0	100.0	100.0	86.8	75.0	64.7	83.3
あり(常にコンドーム+)	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	1.4
あり(コンドーム-のことあり)	0.0	0.0	0.0	10.5	25.0	35.3	15.3
国内で外国人との性接触あり(最近1年)							
なし	100	100	100.0	92.3	100.0	88.2	93.2
あり(常にコンドーム+)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
あり(コンドーム-のことあり)	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	11.8	6.8
性接触ありの場合の相手							
「風俗」で				0.0		50.0	20.0
「風俗」以外				66.7		0.0	40.0
両方で						50.0	20.0
不明				33.3		0.0	20.0
海外渡航歴のある者(最近1年間)(%)							
	0.0	0.0	0.0	5.1	0.0	17.6	6.8
上記のうち 海外で薬物使用のあった者				0.0		33.3	25.0
海外で性交渉のあった者				0.0		66.6	40.0

表7【医療機関を受診していない薬物依存者】の注射経験、入れ墨と属性・血清検査・身体所見

		これまでに	これまでに注射経験あり		入れ墨	
		注射経験なし	1年間にはなし	1年間にもあり	なし	あり
		23[31.5]	31[42.5]	19[26.0]	51[69.9]	22[30.1]
性別	男	23[33.8]	29[42.6]	16[23.5]	47[69.1]	21[30.9]
	女	0[0]	2[40.0]	3[60.0]	4[80.0]	1[20.0]
年齢	20歳代	7[50.0]	2[14.3]	5[35.7]	11[78.6]	3[21.4]
	30歳代	7[25.9]	12[44.4]	8[29.6]	16[59.3]	11[40.7]
	40歳代	6[25.0]	13[54.2]	5[20.8]	17[70.8]	7[29.2]
	50歳代	3[42.9]	3[42.9]	1[14.3]	6[85.7]	1[14.3]
	60歳以上	0[0]	1[100]	0[0]	1[100]	0[0]
	平均年齢±SD	36.7±9.8	41.3±9.1	36.7±8.3	38.8±9.9	38.3±7.8
現在の配偶歴		n=22			n=50	
	未婚	63.6	61.3	63.2	66.0	54.5
	既婚	4.5	0.0	5.3	4.0	0.0
	離婚	27.3	38.7	31.6	28.0	45.5
	死別	4.5	0.0	0.0	2.0	0.0
	離婚歴あり	36.4	45.2	31.6	36.0	45.5
血清検査(%)			n=30	n=18	n=49	
	HIV抗体陽性率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	HCV抗体陽性率	4.3	26.7	38.9	14.3	40.9
	HBs抗原陽性率	0.0	0.0	22.2	4.1	9.1
	HBs抗体陽性率	4.3	10.0	11.1	4.1	13.6
	HBc抗体陽性率	4.3	10.0	22.2	8.2	18.2
	TPHA陽性率	0.0	0.0	16.7	6.1	0.0
性病既往(自己申告)(%)						
	毛ジラミ	4.3	29.0	15.8	15.7	22.7
	淋病	4.3	12.9	26.3	7.8	27.3
	クラミジア	0.0	6.5	10.5	2.0	13.6
	梅毒	0.0	3.2	10.5	3.9	4.5
身体所見(%)						
	輸血の既往あり	13.6(3/22)	33.3(10/30)	22.2(4/18)	26.0(13/50)	19.0(4/21)
	歯の著明不良あり	52.2	51.6	63.2	58.8	45.5
	注射痕あり	0.0	35.5	36.8	17.6	40.9
	入れ墨あり	8.7	38.7	42.1	0.0	100.0
	指つめあり	4.3	12.9	5.3	0.0	27.3
	根性焼きあり	26.1	35.5	31.6	25.5	45.5
	自傷痕あり	13.0	22.6	15.8	13.7	27.3

表8【医療機関を受診していない薬物依存者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

	これまで			入れ墨	
	注射経験なし 23[31.5]	これまで注射経験あり 1年間にはなし 31[42.5]	1年間にもあり 19[26.0]	なし 51[69.9]	あり 22[30.1]
これまで (%)					
注射経験あり	0.0	100	100	58.8	90.9
シリンジ 共用経験あり	0.0	90.0(27/30)	78.9	51.0	76.2(16/21)
針の共用経験あり	0.0	86.2(25/29)	78.9	48.0(24/50)	76.2(16/21)
注射経験の注射回数		n=28	n=18	n=49	n=20
なし	100.0	0.0	0.0	42.9	10.0
1~49回	0.0	25.0	16.7	14.3	15.0
50~99回	0.0	10.7	5.6	8.2	0.0
100回以上	0.0	64.3	77.8	34.7	75.0
最近1年間で (%)					
注射経験あり	0.0	0.0	100.0	21.6	36.4
シリンジ 共用経験	0.0	0.0	42.1	11.8	9.1
針の共用経験	0.0	0.0	42.1	11.8	9.1
注射経験の注射回数			n=18		n=21
なし	100.0	100.0	0.0	78.4	66.7
1~49回			55.6	11.8	19.0
50~99回			16.7	3.9	4.8
100回以上			27.8	5.9	9.5
これまで「あぶり」の経験あり (%)					
	39.1	54.8	84.2	54.9	63.6
この1年間で「あぶり」の経験あり (%)					
	4.3	0.0	47.4	11.8	18.2
この1年間ではどちらが多いか? (%)					
			n=18		n=21
注射	0.0	0.0	83.3	17.6	28.6
「あぶり」	4.3	3.2	16.7	5.9	9.5
同程度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
どちらもなし	95.7	96.8	0.0	76.5	61.9
「風俗」での性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	73.9	67.7	73.7	74.5	63.6
あり(常にコンドーム+)	4.3	6.5	5.3	3.9	9.1
あり(コンドーム-のことあり)	21.47	25.8	21.1	21.6	27.3
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり (最近1年間)					
			n=30		n=21
なし	87.0	80.0	84.2	82.4	85.7
あり(常にコンドーム+)	0.0	3.3	0.0	2.0	0.0
あり(コンドーム-のことあり)	13.0	16.7	15.8	15.7	14.3
国内で外国人との性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	100.0	90.3	89.5	96.1	86.4
あり(常にコンドーム+)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
あり(コンドーム-のことあり)	0.0	9.7	10.5	3.9	13.6
性接触ありの場合の相手					
「風俗」で	0.0	33.3	0.0	50.0	0.0
「風俗」以外で	0.0	33.3	50.0	0.0	66.7
両方で	0.0	33.3	0.0	50.0	11.1
不明	0.0	0.0	50.0	0.0	33.3
海外渡航歴のある者 (最近1年間) (%)					
	4.3	9.7	5.3	5.9	9.1
上記のうち					
渡航先で薬物使用のあった	0.0	0.0	100.0	0.0	50.0
渡航先で性交渉のあった者	0.0	33.3	100.0	33.3	50.0

これまでの推移(1)

①精神科医療施設に入院した覚せい剤乱用・依存者調査(実人数) (複数回の者は、初回をカウント)

	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
HIV Ab 検査数	39	41	47	162	270	316	340	362	291	313	311	302	309	228	211	108	112	81
HIV Ab +	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0.3	0	0.3	0	0	0	1.9	0	0
HCV Ab +	53.8 21/39	65.1 28/43	43.6 24/55	46.1 82/178	43.6 127/291	53 165/317	43.2 153/354	42 153/364	44.7 140/313	40.5 128/318	40.1 121/301	37.1 112/302	35 108/308	37.6 85/228	23.6 50/212	42.1 45/107	33.6 38/113	44.6 33/74
HBs Ag +	2.6 1/39	2.3 1/43	0 0/60	1.7 3/181	2.4 7/290	1.9 6/318	3.4 12/355	2.2 8/365	0.3 1/313	2.5 8/317	2.3 7/302	1.7 5/302	1.6 5/309	0.9 2/226	9.4 20/212	0.9 1/107	2.7 3/113	1.4 1/74
HBs Ab +	25.6 10/39	25.6 11/43	10.8 4/37	13 18/138	8 20/250	11.5 10/87	12.2 14/115	3.8 10/262	3.9 4/103	2.2 2/93	2.6 3/116	1 1/105	2.3 3/132	2.9 3/104	2.6 2/76	2.9 2/68	0 0/67	0 0/49
HBc Ab +				16.7 1/6	9.4 5/53	18 12/61	5.8 8/104	0 0/82	4.9 4/81	0 0/60	0 0/4	2.2 1/45	0 0/6	0 0/83	0 0/55	2.0 1/49	1.6 1/61	0.0 0/49
% Needle Use (lifetime)	92.1 35/38	95.3 41/43	93.3 56/60	98 50/51	89.9 134/149	92 127/138	86.7 156/180	94.9 149/157	66.9 83/124	77.7 94/121	82.3 121/147	81.5 101/124	73.5 121/166	86.4 108/125	76.9 83/108	79.3 69/87	80 80/100	77.8 56/72
% Needle Use (past year)		50 5月10日	70 42/60	88.2 45/51	67.6 98/145	68.1 94/138	71.1 128/180	84.7 133/157	58.1 72/124	62 75/121	61.8 89/144	59.3 73/123	53.9 89/165	56.5 70/124	49.5 53/107	48.3 42/87	51 51/100	57.7 41/71
% Needle Sharing (lifetime)	84.2 32/38	88.4 38/43	67.9 36/53	97.2 35/36	81.3 109/134	78.9 101/128	58.9 99/168	61.8 97/157	48 59/123	55.4 67/121	63.4 85/134	62.3 71/114	47.8 76/159	67.2 84/125	60 63/105	65.1 56/86	60.2 59/98	64.2 43/67
% Needle Sharing (past year)		40 4月10日	32.7 17/52	52.9 18/34	45.8 60/131	68.1 94/138	37.3 62/166	37.6 59/157	35 43/123	30.6 37/121	28.5 41/144	25.9 29/112	17 27/159	23.4 19/124	19.2 20/104	16.3 14/86	14.4 14/97	14.5 9/62
「あぶり」の経験+ (lifetime)						30.3 47/155	53.4 93/174	59.9 94/157	59.6 74/124	71.1 86/121	65.5 87/148	63.9 78/122	63.4 104/164	67.2 84/125	68.9 73/106	64.4 56/87	73.5 72/98	70.8 51/72
「あぶり」の経験+ (past year)						20.8 32/154	48 84/175	45.2 71/157	61.1 66/108	56.2 68/121	55.4 82/148	53.3 65/122	57.4 95/164	57.6 72/125	52.4 55/105	48.3 42/87	59.6 59/98	55.7 39/70
注射が「あぶり」か (past year)																		
注射						63.2 9	49.2 28.5	68.2 16.6	40.7 41.7	44.2 35.8	40.3 35.4	41.9 36.8	38.9 38.9	29 40.3	30.8 40.4	37.9 42.5	36 37	37.3 41.8
「あぶり」同程度						1.3	8.4	7.6	10.2	8.3	11.8	6.8	9.3	9.7	5.8	1.1	5	1.5
どちらもしない						26.5	14	6.4	7.4	11.7	12.5	14.5	13	20.2	23.1	18.4	22	19.4
n						155	179	157	108	120	144	117	162	124	104	87	100	67
調査施設数	関東 1	関東 1 関西	関東 2 関西	全国 6	全国 7	全国 6	全国 6	全国 7	全国 7	全国 6	全国 6	全国 6	全国 6	全国 6	全国 6	全国 5	全国 4	全国 4

これまでの推移(2)

②非医療機関の覚せい剤乱用・依存者(実数) 複数回人間は初回をカウント

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
HIV Ab 検査数	4	9	11	33	35	18	37	42	43	26	38	26	48	24	37	39
HIV Ab +	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
HCV Ab +	25 1/4	44.4 4/9	9.1 1/11	53 7/32	48.6 17/35	38.9 7/18	40.5 15/37	31 13/42	32.6 15/43	23.1 6/28	26.3 10/38	26.9 7/28	29.2	37.5	29.7	39.5 15/38
HBs Ag +	0 0/4	0 0/8	0 0/11	0 0/33	0 0/35	0 0/18	0 0/37	2.4 1/41	0 0/43	0 0/26	2.6 1/38	0 0/26	0	0	0	2.7 7/9 3/38
HBs Ab +		0 0/8	10 1/10	12.1 4/33	11.4 4/35	5.6 1/18	12.5 3/24	10.3 3/29	15.4 7/43	18.8 3/16	14.7 5/34	11.5 3/26	10.4	12.5	8.1	7.9 3/38
HBc Ab +			10 1/10	12.5 4/32	14.3 5/35	11.1 2/18	12.5 3/24	17.2 5/29	23.1 10/43	6.3 1/16	11.8 4/34	11.5 3/26	16.7	16.7	16.2	18.4 7/38
% Needle Use (lifetime)	100 4/4	83.3 5/6	90.9 10/11	75.8 25/33	88.6 31/35	88.9 16/18	81.8 30/37	81 34/42	86 37/43	88.5 23/26	92.1 35/38	92.3 24/26	89.6	91.7	89.2	84.6
% Needle Use (past year)	75 3/4	50 3/6	72.7 8/11	42.4 14/33	65.7 23/35	38.9 7/18	45.9 17/37	40.5 17/42	34.9 15/43	19.2 5/26	28.9 11/38	42.3 11/26	14.6	12.5	29.7	38.5
% Needle Sharing (lifetime)	50 2/4	66.7 4/6	81.8 9/11	69.7 23/33	79.4 27/34	72.2 13/18	73 27/37	66.7 28/42	67.4 28/43	65.4 17/26	81.8 30/37	76 19/25	75	87.5	78.4	66.7
% Needle Sharing (past year)	25 1/4	33.3 2/6	54.5 6/11	36.4 12/33	54.4 19/35	22.2 4/18	32.4 12/37	16.7 7/42	20.9 9/43	3.8 1/26	18.4 7/38	23.1 6/26	8.3	12.5	16.2	12.8
「あぶり」の経験+ (lifetime)				71 22/31	60 21/35	72.2 13/18	56.8 21/37	64.3 27/42	55.8 24/43	61.5 16/26	60.5 23/38	52 13/25	64.6	66.7	75.7	74.4
「あぶり」の経験+ (past year)				37.5 12/32	34.3 12/35	38.9 7/18	35.1 13/37	14.6 6/41	11.6 5/43	3.8 1/26	10.5 4/38	15.4 4/26	12.5	8.3	8.3	20.5
注射か「あぶり」か (past year)																
注射				34.4	57.1	22.2	43.2	41.5	34.9	19.2	28.9	34.6	18.8	8.3	30.6	35.9
「あぶり」				18.8	17.1	27.8	13.5	9.7	11.6	3.8	2.6	11.5	4.2	0	2.8	7.7
同程度				6.3	5.1	5.6	0	0	0	0	2.6	0	0	4.2	0	0
どちらもなし				40.6	20	33.3	43.2	48.8	53.5	76.9	65.8	53.8	77.1	87.5	66.7	56.4
n				32	35	18	37	41	43	26	38	26	48	24	36	39
調査施設	全国	全国	全国	全国	全国	全国2	全国2	全国2	全国3	全国3	全国4	全国3	全国5	全国5	全国7	全国6

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)
国内外の HIV 感染症の流行動向及びリスク関連情報の戦略的収集と統合的分析に関する研究
分担研究報告書

外国人薬物使用者等の HIV 感染と行動のモニタリングに関する研究

分担研究者 中村亮介（東京都立松沢病院精神科）

【目的】精神科に入院となった外国人患者について薬物乱用の有無や薬物使用行動、性行動等 HIV 感染に関わるハイリスク行動を調査する。

【方法】首都圏の某公立精神科病院に入院となった外国人精神疾患患者を対象として、対象者の同意の下に調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。

【結果】①本年度は、20 カ国 43 名人の入院があり、薬物乱用者が 4 名認められた。②2006 年に 2 名の HIV 感染者が確認されたが、その後は、今年度も含めて、HIV 感染者は認められなかった。③「B 型肝炎ウイルスのキャリア」2 名、「C 型慢性肝炎」2 名、「梅毒の既往を示すもの」4 名が認められた。④ここ数年の傾向として「風俗業」に従事していた女性患者が目立つようになったが、その傾向は、本年度も同様であった。

【考察】薬物乱用・依存者の間に HIV 感染者が出現してから HIV 感染が蔓延するまでの期間は一般に 2 年程度である。流行は海外から侵入する可能性が高いことから、薬物使用を行う外国人患者を調査することは、今後の動向を予測する上でも重要である。

(1)目的

精神科病院に入院となった外国人患者について薬物乱用の有無や注射器・注射針の使用実態、性行動等 HIV 感染に関わるハイリスク行動を調査することによって HIV 対策の基礎資料に供する事を目的とする。

(2)方法

首都圏に位置する某公立精神科病院に薬物使用等で入院となった外国人患者を対象として、対象者の同意の下に調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの

転記調査を実施した。

(3)結果

本年では、20 カ国 43 名人の入院があった。入院患者を出身国別にみると、入院患者数の多さでの上位はアジア圏が占めているが本年はアメリカ合衆国が 3 位に入った。ただし実人数としてはこのアメリカ合衆国からの患者数も減少しているものである（表 1）。本年度は昨年度に引き続き HIV 感染者は認められなかった。同時に調査を行った「肝炎ウイルス感染症」「梅毒感染症」については「B 型肝炎ウイルスのキャリア」

が2名、「梅毒の既往を示すもの」が4名、いずれもアジア圏からの症例にみられ、「C型慢性肝炎」2名は欧米からの症例であった（表2）。

外国人患者の ICD-10 分類による内訳を表3に示す。例年通り F2（統合失調症圏）の症例が最多となっている。

また女性患者のうち「風俗業」に従事していた者の比率が高いのも、ここ数年持続して見られている傾向である（表4）。

43名の症例のうち、薬物乱用者は4名確認されたが、これらはヨーロッパ圏・アフリカ圏・アジア圏からそれぞれアルコー

ル・鎮咳剤等・覚醒剤の乱用／依存を生じたものであった。

「静脈注射使用歴を有する患者」はここ数年減少の傾向が見られており、昨年引き続き本年も確認されなかった。本研究の対象となる「首都圏公立精神科病院に入院となった外国人患者」には常に一定以上（5%以上）の割合で薬物乱用者が含まれており、また梅毒感染の既往を有す患者が増加の傾向を示していることからHIV拡散の高リスク群として外国人患者の動向に注目すべきものとして今後も継続した実態把握が必要である。

表1 2010年における外国人入院患者の国籍（上位7カ国） [単位：人数]

出身国	男性	女性	合計
中国	2	7	9
韓国	1	4	5
アメリカ	4	0	4
台湾	1	2	3
フィリピン	2	1	3
イラン	3	0	3
コロンビア	2	0	2

表2 2010年における外国人入院患者の有する感染症 [単位：人数]

	男性	女性	合計
B型肝炎(キャリア)	2	0	2
C型慢性肝炎	1	1	2
梅毒の既往	2	2	4

表3 2010年における外国人患者のICD-10分類 [単位：人数]

ICD-10	男性	女性	合計
F0 (認知症・器質性疾患)	1	4	5
F1 (精神作用物質性障害)	3	1	4
アルコール	1	1	2
覚醒剤	2	0	2
多剤併用	0	0	0
F2 (統合失調症など)	12	15	27
F3 (躁鬱病圏)	1	3	4
F4 (神経症圏)	1	1	2
F5 (拒食症・不眠症など)	0	0	0
F6 (人格障害)	0	1	1
F7 (精神発達遅滞)	0	0	0
F8 (自閉症など)	0	0	0
F9 (その他)	0	0	0
合計	18	25	43

表4 2010年における外国人患者の薬物乱用・性行動と血清学的検査の結果

	男性 (n=18)		女性 (n=25)		合計 (n=43)	
	n	%	n	%	n	%
薬物使用歴	3	16.7	1	4.0	4	9.3
静脈注射歴	0	0.0	0	0.0	0	0.0
「風俗」経験	2	11.1	5	20.0	7	16.3
不特定多数との性交渉	2	11.1	3	12.0	5	11.6
同性愛	1	5.6	1	4.0	2	4.7
HIV抗体	0	0.0	0	0.0	0	0.0
HCV抗体	1	5.6	1	4.0	2	4.7
HBs抗原	2	11.1	0	0.0	2	4.7
HBs抗体	0	0.0	0	0.0	0	0.0
TPHA	1	5.6	3	12.0	4	9.3

研究成果の刊行に関する一覧表

[欧文原著]

1. Zamani S, Ono-Kihara M, Ichikawa S, Kihara M. Potential for sexual transmission of HIV infection from male injecting-drug users who have sex with men in Tehran, Iran. *Sex Transm Dis.* 2010 Nov;37(11):715-8.
2. Visrutaratna S, Wongchai S, Jaikueankaew M, Kobori E, Ono-Kihara M, Kihara M. Sexual behavior of Japanese tourists visiting Thailand a key informant approach. *J Pub Health Develop* 8:33-44, 2010.
3. Ono-Kihara M, Sato T, Kato H, Suguimoto-Watanabe SP, Zamani S, Kihara M. Demographic and behavioral characteristics of non-sex worker females attending sexually transmitted disease clinics in Japan: a nationwide case-control study. *BMC Public Health.* 10:106, 2010
4. Zamani S, Radfar R, Nematollahi P, Fadaie R, Meshkati M, Mortazavi S, Sedaghat A, Ono-Kihara M, Kihara M. Prevalence of HIV/HCV/HBV infections and drug-related risk behaviours amongst IDUs recruited through peer-driven sampling in Iran. *Int J Drug Policy.* 2010 [Epub ahead of print]
5. Zamani S, Radfar R, Torknejad A, Alaei AB, Gholizadeh M, Kasraee F, Ono-Kihara M, Oba K, Kihara M. Patterns of drug use and HIV-related risk behaviors among incarcerated people in a prison in Iran. *J Urban Health* 87(4):603-16, 2010.
6. Zamani S, Vazirian M, Nassirimanesh B, Razzaghi EM, Ono-Kihara M, Mortazavi Ravari S, Gouya MM, Kihara M. Needle and syringe sharing practices among injecting drug users in Tehran: a comparison of two neighborhoods, one with and one without a needle and syringe program. *AIDS Behav.* 2010 Aug;14(4):885-90

[和文原著等]

1. 木原雅子、木原正博. 現代社会にはびこる「見えない精神的暴力」—その背景とし人間的つながりの希薄化. 現代のエスプリ 511: 27-38, 2010
2. 木原正博、鬼塚哲郎、小野寺昭一、木原雅子、橋本修二. 世界的HIV流行の新局面（ニューグローバルウェーブ）と日本. 日本エイズ学会誌 12(2) :41-45, 2010年
3. 木原雅子、加藤秀子、木原正博. 新時代のHIV感染症予防戦略. 臨床とウイルス 38(4): 270-6, 2010年
4. 木原正博、木原雅子. 日本のHIV流行の現状と推計・予測及び今後の展望について. 公衆衛生 74(11): 6-9, 2010年
5. 木原正博. 社会と健康を科学するパブリックヘルス (1) 21世紀の課題とNew Public health. 日本公衆衛生雑誌 57(12): 1094-1097, 2010年